

匪徒利かつて為高籠し主人
尋向ふる一市雜語中一文字

徳才
長山寺の在勤中天若高江の城を以て
以外

全高巡り多し、材數を八十三石といふ
徳才
用高し産物の少くありて

才つて石炭多積り多し河原
標の末砥石陶器と定る中

右石炭を長山寺に賣り申す用ひ
右各機を用ひ六日一人一噸を
掘り出せるを百噸と掘り申す

漆師がワルビ産に付直して其に事
あり申す

がワルビに於て居り付て私宅に名無
者にお出さる者も和し召使中、あり
し、がワルビ人より力に誘方し漆山石炭も
悉く用ひ申すといふ也

常高の多量事、付石炭を以てクサリ物に
多しと申す事と考へ居り

機械拵付方甚名供の外國人材料も
右向陸より十萬ドル程の十分の備
あり、の正事、其を以て初出銀
あり、りるありといふ

右を追而利勿おとす法を
多しに成致し備の心算を以て能向
りて其の、政府を以て傍あり



おとこのひりやそをうむを新田根
ひりやそをうむを新田根

右を追而利勿おとす法を
多しり戒戒と借の心法を從徳向
りて其の 函府を多し借り
石炭の出を査し其税を
好む此法も多しり其の度

文初設備し其費十元ばるを
和田根を 石炭坑を大に開きり
みり其舎の由法を下たりり由
土膏掘り其益を税とて其分
おとす人其多し其費

函府より一切の事 其年
先廿年或廿五年を限り
益何れに直り其第一損何れ
得失を借部を其

損を 函府より其分
益のみ半し其を税とて

其の損を多し其分
石炭 其通し其年
おとす 余人より其分
其分より其分代と職人
其分より其分
又其分東年其分
大石炭其進上可仕土地
其分其分且其國益し其分
可より其分其分

益のみ半しをを殺し去り

此為損なきは是也故に和年

少少しと通しは年去年

也一余人の少少とせは或は年終
て成りては為械代と職人給料とを

少少属其六のつるもの事と引

り又の物東年去年柄も後を

右若械代進上可付土地と潤也

少由成且は國益は後付りて之

可より思召者もははの物言も家

名あり

ふ若しは國益を後付し法に付

上官は建言可致也

少少は少少は定也故に少少

系系于の少人、其引は成

格廣末了集し高給は石炭

あり事は面何して其に成

商人は面何する所成事し

其なるを从業といたり

使者し者として同和は面何し

少成具し可なり云はる也